

語学の授業におけるテキストの種類:TALO、TAVI、TASP

注)日本語版は、あくまでも読者の理解を容易にするためのものであり、英語による本文が正文です。日本語版は仮訳です

語学の授業におけるテキストの種類:TALO、TAVI、TASP

<http://www.teachingenglish.org.uk/article/text-language-classrooms-talo-tavi-tasp>

インターネットの大きな利点の一つが、教師が学習者のために使える英語のテキストを大量に手に入れられることだ。

しかし、教師がテキストを見つけることと、それを授業でうまく使いこなせることには大きな隔りがある。教師はテキストをどのように使うべきか。過去にはどのように使っていたのか。この記事では、語学の授業においてテキストを使用するにあたっての様々なアプローチを検討する。

- 語学の授業におけるテキストの変遷
- 時代ごとの様々なテキスト
 - TALO: 言語学の対象としてのテキスト
 - TAVI: 情報伝達のためのテキスト
 - TASP: 発信・産出の出発点としてのテキスト
- 21 世紀における代表的なテキスト授業の計画
- 語学の授業におけるテキストの変遷

これまで長い間、テキストは語学の授業において活用されてきた。しかしその活用方法は年とともに変化してきた。

- 100 年前には、教師は通常文語調のテキストを授業に取り入れ、生徒と一緒にそれを一語一語、一文一文翻訳していた。そして英語と生徒の母語との類似点や相違点に注目させていた。これは文法訳読アプローチの一環であった。
- 50 年前もテキストは使われていた。ここでのテキストは上記の文語調のテキストとは大きく異なっていた。第一に、以下のような対話形式であることが多かった。
 - "Is this a pen?" (「これはペンですか。」)
 - "Yes, this is a pen." (「はい、これはペンです。」)
 - "Is that a pen?" (「あれはペンですか。」)
 - "No, that is a pencil." (「いいえ、あれは鉛筆です。」)

・テキストは言語のある項目を特に強調する形で書かれていた(この場合、「be」動詞と、this と that という直示の違い)。生徒はテキストを黙読し、教師の後について対話を繰り返し、それからペアで練習した。50 年前に教師がテキストをこのように使っていたとすれば、それはオーディオ・リンガル法を使った授業を受けていた可能性が高い。

・15 年前の語学の授業で教師が使っていたものは、その 35 年前のものよりもずっと興味深いものであろう。語学教授法のコミュニカティブ・アプローチでもテキストが使われたが、オーセンティックな(本物の)テキストがより好まれていた。このアプローチでは、教師はテキスト全体の意味により一層焦点を当てていた。生徒は「すべての単語を理解しようとしなさい」ように、単に言葉ではなく、内容と全体的な意味をつかむためにテキストを読むよう促された。

• 時代ごとの様々なテキスト

テキストはどのような目的を果たすものなのか。どのようなテキストが適切であるのか。過去にわたって教授法のアプローチが変化したように、テキストもまた変遷を経てきた。語学教授法の論文において、TALO、TAVI、TASP はテキストを表現するのに使われる3つの略語である。

・TALO : 言語学の対象としてのテキスト(Text as a linguistic object)

TALO は特に文法や語彙に焦点を当てた言語のために使われる。

・TALO テキストは

- ・特に教育上の目的を念頭において書かれている。
- ・言語のある特徴の事例が多数含まれるという理由から、教員が選んだオーセンティックなテキストの場合もある。
- ・オーセンティックなテキストを「改変して」、言語の特定の特徴を含めたり、強調したりすることもある。

・TALO アクティビティの事例

- ・テキストの中で X の事例をすべて見つける(例えば、文法の型、機能語、特定の動詞形など)。
- ・テキストの中で X に関連するすべての単語を見つけて(トピックに関連する単語や語彙集合)。
- ・様々な選択肢から特定の型が選ばれている理由を見つけて(例えば、条件法が使われている理由)。

・TAVI : 情報伝達のためのテキスト(Text as a vehicle for information)

TAVI テキストは異なることに注目している。言語そのものよりも、テキスト内の情報が重視されている。生徒は言語的な細部ではなく(または、少なくともそれより先に)、テキストの全体的な意味を理解しなければならない。

・TAVI テキストは

- ・やる気を引き出すという理由から選ばれることもある。
- ・生徒が読みたがるだろうと教師が考えるテキストの場合もある。
- ・オーセンティックな(本物の)テキストの場合もある。

・TAVI タイプのアクティビティ

- ・テキストの内容を推測する、テキストに関連した質問や文章を話し合う。
- ・テキストの中で以前から知っていた内容、知らなかった内容に印をつける。
- ・理解度を確認する質問に答える。
- ・テキストの主要ポイントを要約する。
- ・事柄を順番に並べる。

上記の事例では、最初の2つ(文法訳読とオーディオ・リンガル法)が TALO を使い、3番目の例(コミュニケーション・アプローチ)が TAVI を使う。

・TASP : 発信・産出の出発点としてのテキスト

もう一つのテキストの種類は TASP であり、Text as a Stimulus for Production(発信・産出の出発点としてのテキスト)を意味する。これは、テキストをほかのタスク、通常リーディングやライティングのタスクの出発点として使うことを意味する。TASP アプローチはコミュニケーション・アプローチとも相性が良い。

・TASP タイプのアクティビティ

- ・テキストに基づいたロールプレイを行う。
- ・テキストで提起されている問題を話し合う。
- ・テキストに示された観点についてディベートを行う。
- ・生徒が知っていることを題材にして似たようなテキストを書く。
- ・テキストに対して返答を書く。

• 21 世紀における代表的なテキスト授業の計画

21 世紀において教師はテキストをどのように「最大限に活用」できるだろうか。その一つの方法が、異なるアプローチを組み合わせることである。その場合、テキストを使った授業の最初から終わりまでは次のようになるだろう。

- ・生徒にとって興味深く、やる気を引き出すと思えるテキストを選ぶ(あまり難しくないもの)。言語だけを念頭におくのではなく、情報内容を考慮して選定を進める(つまり、TAVI)。生徒が情報を処理し、テキストを理解するのに役立つアクティビティを立案する。
- ・テキストの中で取り上げるべき特定の文法や語彙を見つけ、それを明らかにするアクティビティを考える。
- ・テキストを読み終えた後に生徒が実施できるタスクの内容を考案する。
- ・授業では TAVI タイプのアクティビティから始めて、生徒がテキストの情報を理解できるようにする。
- ・その後テキストの言語を TALO タイプのアクティビティを通じてより詳細に検討する。
- ・最後に TASP アクティビティによって授業を終了する。

著者:Lindsay Clandfield, Teacher trainer and Writer, Spain